



年のせいにしていませんか？

ワンちゃんの体調の変化や行動の変化は、年齢のせいだけではないかもしれません。

我が家のM・ダックスのナミも無邪気で活発だった仔犬の時期をあっという間に過ぎ、成犬になり、心も体も安定した日々を過ごしていました。

そんなナミも、今年でもう9才になり、年を重ねて、顔もだいぶ白くなり、行動や生活にも変化が現れるようになってきました。

今年の夏は食欲が落ち、心配で血液検査をしましたが、特に変わりなく安心しました。

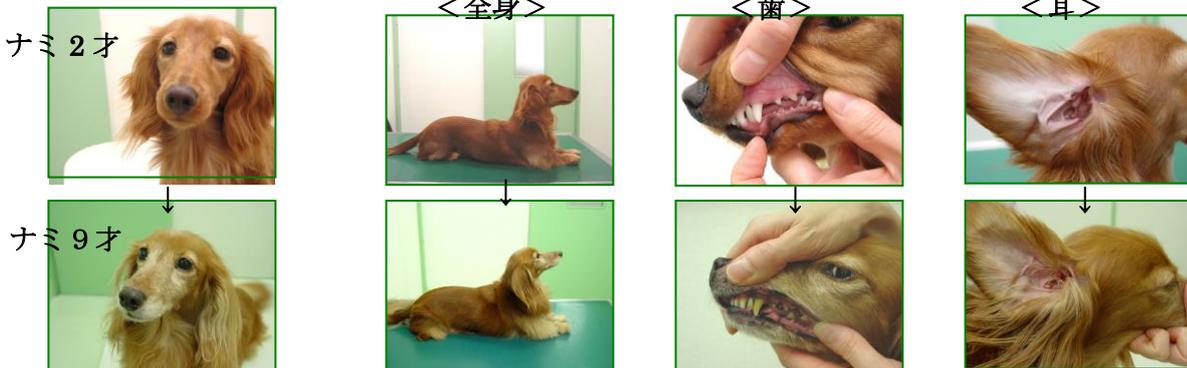
当院に仔犬頃から通っていらっしゃる飼い主さんからも、「うちの子も、年のせい・・・」という声を聞くことも多くなりました。

成犬の頃から8才を過ぎて、シニア犬なるころの一般的な外見と行動の変化を表にしてみました。



	外見	行動
体全体	体型の変化。	動きたがらない。寝ている時間が増える。
目	少し白くなり始めたり、目ヤニも増える。	特に暗くなると見えにくく、不安を感じている様子。
耳		聞こえにくくなってくる。
鼻		特に変わらない様子。
歯	歯石、歯肉炎がみられる	歯磨きをすると、出血がみられることも。固いものが食べにくくなってきた様子
皮膚	薄く、張りや弾力が失われてくる。シミがでてくる。	乾燥のせいか、掻いたり、なめたりすることが増える。
毛	白くなり始め、毛量の減少、細くなる。	
足・腰	筋肉の低下。	歩きがゆっくりになってくる。痛みがあると、体の一部をかばったりしながら、動く。

《写真で比べてみました》



体が少しずつ不自由になることで、私たちからみると問題になるような行動がでてくる場合があります。この中には加齢による、自然な老化もありますが、病気が隠れていることもあります。早期に発見できれば症状が軽減し、問題が解決することもあります。

今は特に心配なくても、まだ症状を現さないだけかも知れませんが、体の状態を知るためには、検査（血液検査、レントゲン、心電図等）が必要です。

また、成犬の時（体調の良い）に検査をしておく、その後の参考になりますのでお勧めです。

今後、何を注意していくべきか、フードはこのままでいいのか、どのような環境を整えてあげるといいのか考えてあげましょう。

いつまでも、ずっと元気で一緒にいたいから・・・